

校長だより 2月号



だるまに込めた思い

校長 柴田 雅之

先日、麻生不動院の「だるま市」に行きました。学校にあっただるまを納めるとともに、新しいだるまをいただいてきました。千代ヶ丘からは少し距離があるので、あまり馴染みがないかもしれませんが、この「だるま市」は川崎市地域文化財に選ばれています。各学年に小さなだるまを一つずつ配りました。これから今の学年のまとめをして、4月からは進学・進級します。それぞれの学年の子どもたちが、健康に安全に、安心して成長してほしいと思います。だるまは、倒れてもひとりでの起き上がる人形です。子どもたちもだるまのように、何度転んでもそのたびに立ち上がる強さを身につけてほしいと思います。チャレンジに失敗はつきものです。それを繰り返す中で成長していくことを願っています。

ちなみに、この川崎市地域文化財に「千代ヶ丘小学校五色八重咲散椿」も選ばれています。今、とてもたくさんの小さな蕾が寒さの中で少しずつ膨らんでいます。近づいてよく見ると、先が赤やピンクに色づいているものがあります。茶色っぽいものや緑のものなどもあります。一つ一つの蕾からどんな色の花が咲くのか楽しみです。毎年3月ごろ花を咲かせます。学校にお越しの際は是非ご覧ください。

保護者の皆様には、教育活動アンケートへのご協力をいただき、ありがとうございました。お子様の姿を通じて、また、実際に学校に来ていただいた際の様子からご回答いただいたことと思います。その結果を来年度の学校運営に活かしていきたいと思っています。このような学校評価の取り組みは、お子さんや教職員にも行っています。千代ヶ丘小学校がさらに良い学校になるよう努力を続けていきたいと思っています。私としましては、今年度は50周年記念事業がとても大きな柱だったと思っています。それに関わることをはじめ、教育活動の中で、地域の皆様、保護者の皆様にとっても多くのご協力をいただいたと強く感じております。PTA 活動やボランティア活動においては、子どもたちのためにという温かい心遣いから、たくさんの方々に関わってくださいました。ありがとうございました。これからも、「できることをできる範囲で」というスタンスでご協力いただければと思います。先日の家庭科の調理実習ボランティアやスーパーマーケット見学引率ボランティアにおいては、子どもたちの頑張る姿や成長の姿を直接見ることができたというようなご感想をいただきました。子どもたちも、いろいろな大人に見てもらえていることで安心感を得るとともに、やる気も増すことと思います。

※「あっ、そうなの！麻生区長寿日本一 ～その先へ」(麻生区地域みまもり支援センターより)

「幸せ」感じる時はいつですか？

みまもり支援センターの令和6年度のテーマは「区民の皆さんで幸福感を共有したい」でした。困難を乗り越える力をレジリエンスと言いますが、そのベースは自己肯定感＝「幸せ」と思っています。皆さんはそれぞれ「特別なオンリーワン」です。そんなご自分を大切に。